

にぎわい

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

～ 九州発信 ～

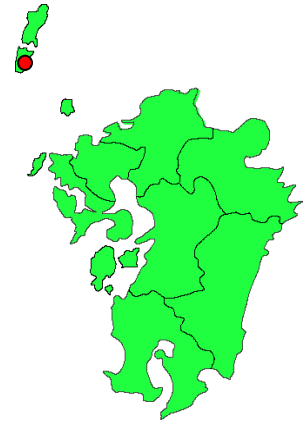
会員だより(対馬市)

～ 厳原港まつり『対馬アリラン祭』 ～

毎年8月の第一土・日曜日(今年は8月7日・8日に開催)に長崎県対馬市厳原町で開催される「対馬アリラン祭」では、朝鮮通信使行列を再現しており、対馬市商工会厳原支所が中心となり、青年部の手により企画・運営を行い、民間と行政が一体となり祭りを実施しています。



朝鮮通信使行列



『対馬アリラン祭』の由来は江戸時代に遡り、李王朝が1607年(慶長12年)から1811年(文化8年)まで12回、徳川将軍が代わるたびに祝いとして、隣国・朝鮮からの善隣友好の大文化使節「朝鮮国信使」一行(400～500人の大使節団)を対馬経由で江戸に派遣し、それを対馬藩士が警護していました。この歴史にちなんで、日韓交流事業として、行列の再現が始まりました。



さらに、昭和55年には、地元の有志が朝鮮通信使行列振興会を結成、同時に韓国からの舞踊団も参加するようになり、この一大ページント

はく平成の朝鮮通信使絵巻>といった趣となっています。



国書交換式

昭和63年には、祭りの再編が持ち上がりメインタイトルとして「対馬アリラン祭」と呼称を増やし、韓国観光客が多数来島、祭りに参加するまでに至り、今日の国際的なイベントに発展しました。ちなみに韓国国内関係者からは、「対馬島韓国の日」とか「対馬島アリラン祝祭」と親しまれており国際親善交流のひのき舞台として評価され、来島者の宿も確



補足

朝鮮国王と江戸幕府の将軍との間で交わされた国書の交換式。12回の来日の度、毎回行われ、内11回を江戸で、最後の1回を対馬で行った。



舟ぐろう大会

保できないくらいの活況を呈しています。

この『朝鮮通信使行列』は、現在では『対馬アリラン祭』のメインイベントとして位置付けられ、年々盛大になっています。

この他に舟ぐろう大会、花火大会、歌謡ショーなども開催されており、『対馬アリラン祭』は島全体が一体となって盛りあがっています。

レポート(博多港湾・空港整備事務所)

～ 海フェスタふくおか開催 ～

7月17日(土)～25日(日)の9日間にわたり「人を 夢を 未来を つなごう みなとから」をテーマに「海フェスタふくおか」が開催されました。

「海フェスタ」とは、国民の海に対する関心を高めるために昭和61年から全国の主要港湾都市で開催されてきた「海の祭典」が、昨年の「海の日」の連休化に合わせて、地域に密着したより効果的な海の啓発宣伝の場としてリニューアルされたもので、海の啓発宣伝の一大イベントとなっています。昨年の開催地神戸市に続き、第2回となる今年は福岡市・博多港での開催となりました。

9日間の期間中、博多ぴあトピア(バイサイドプレイス博多埠頭・中央埠頭)をメイン会場に、博多湾一帯からシーサイドもち、能古島、志賀島、さらには福岡アジア美術館や福岡管区気象台など9つのエリアに会場が設けられ、オープニングイベントをはじめ、船舶の一般公開、体験航海などの主要イベントから企画・協賛イベントまで盛りだくさん。

九州地方整備局もこの海フェスタ実行委員として主要イベントなどを企画。22日と23日の午前中は、中央ふ頭6号岸壁に国土交通省の浚渫兼油回収船「海翔丸」と清掃兼油回収船「がんりゅう」を接岸させ、船内の一般公開を行いました。また、両日の午後からは「夏休み！親子で博多湾見学クルージング」を開催しました。これは、福岡市内在住の小・中学生とその保護者を対象に、「みなと」の説明を行いながら博多湾を1時間程度でクルージングするという内容で、例年8月末に実施していたものを、今年は「海フェスタふくおか」の開催時期に合わせて実施したものです。

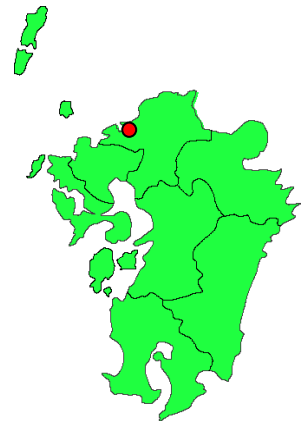


日本丸

1日200名、2日間で計400名を定員として募集したにもかかわらず全体で744名もの応募があり、抽選により344名の方には参加を遠慮いただくという、主催者としては嬉しくもあり悲しくもある何とも言えない事態となりました。クルージングには「マ



シンボルマーク



多くの人でにぎわう体験乗船

リエラ」という船を使用したのですが、普段はディナークルーズやウェディングクルーズなどを行っており、この船の人气が相当高かったようです。

クルージングは両日とも絶好の好天に恵まれ、船酔いする方もほとんど無く、無事に終了することが出来ました。今年からは博多港の説明に加え、工事中の施設の工事内容の説明などを行いました。参加者からは「勉強になった」、「子供が真剣に説明を聞いていた」などの嬉しい感想をいただきました。一方で、勉強ばかりではつまらないと「クイズ大会」や「ジャンケン大会」も実施しましたが、こちらも盛況で元気な子供たちの姿が印象に残りました。

期間中は、関係官庁が写真やパネル、模型等を持ち寄り、海・船・港を一般の方にも分かりやすく、身近に感じられるような内容で展示する「海の総合展」を開催。九州地方整備局からは、「2003豊かなウォーターフロントフォトコンテスト入賞作品」や「港ができるまでの説明パネル」、「次世代港湾の模型」、「広報用のパソコン」等を出展するとともに、広報紙などを配布しました。

この「海フェスタふくおか」は、市民のみなさんを始めとして多くの方々に海・船・港の魅力に触れて頂いた9日間だったと思います。



マリエラでのクイズ大会



『海の総合展』

編集・問い合わせ先 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局
九州地方整備局 港湾空港部 港湾計画課 TEL 0832-24-4126
担当:佐々本、島田 FAX 0832-24-4137